

装置本体は下記の仕様を満たしていること。

1.1 手術室用 超音波診断装置本体は以下の要件を満たしていること。

- 1.1.1 ティッシュハーモニックイメージ(THI)が可能であること。
- 1.1.2 リニアプローブ使用時に視野を広げるために、台形表示が可能であること。
- 1.1.3 血流表示することができ、微細な血流の観察が可能であること。
- 1.1.4 画像の輝度をワンボタンで最適に調整できる機能を有していること。
- 1.1.5 低音圧系、中音圧、高音圧のコントラスト剤による造影エコーが可能であること。
- 1.1.6 Contrast Harmonic Imaging(CHI)において、造影モードとモニターモードの2画面表示を備えていること。
- 1.1.7 観測用モニタは21.5インチ以上であること。
- 1.1.8 車輪を固定した状態でも操作卓を左右に移動が可能であること。
- 1.1.9 画像調整に関するパラメーター(ゲインや周波数など)を1プリセットあたり4パターン登録可能であり、検査中にタッチパネルで瞬時に切り替え可能であること。
- 1.1.10 バッテリーが搭載でき、バッテリー駆動状態で30分以上の基本モードライブスキャンが可能であること
- 1.1.11 同時に4本のプローブが駆動できる構造になっていること。
- 1.1.12 腹腔鏡下で使用できるプローブが接続可能である仕様の装置であること。
- 1.1.13 任意の静止画像あるいは動画像を JPEG・MPEG 形式で装置内蔵のハードディスクまたは共有フォルダへ保存・読み出しが可能であること
- 1.1.14 装置内蔵のハードディスクへ保存した画像はDVD、CD-R、USBメモリに保存が可能であること。
- 1.1.15 白黒プリンタは装置と一体化しており、操作卓上での操作ができ、ワンボタンでプリントとハードディスクへの保存が同時にできること。
- 1.1.16 DICOM規格に準拠していること。
- 1.1.17 重量は周辺機器を含まず91Kg以下であること
- 1.1.18 院内のネットワークにDICOM接続が可能であること。
- 1.1.19 院内ネットワークの接続に関わる費用を全て含むこと。

1.2 コンバックスプローブは以下の要件を満たしていること

- 1.2.1 プローブの走査方式はコンバックス式電子走査であること。
- 1.2.2 周波数レンジは3MHz~10MHzの範囲内であること。
- 1.2.3 視野角は約40°以上で、開腹手術時に肝臓の裏側まで届く形状であるために、プローブ先端の外寸が幅46mm×高さ29mm以内であること。

1.2.4 造影エコーが可能であること。

1.2.5 エチレンオキシドガス滅菌、過酸化水素ガスプラズマ滅菌に対応していること。

1.3 リニア式電子スキャンプローブは以下の要件を満たしていること

1.3.1 プローブの走査方式はリニア式電子走査であること。

1.3.2 周波数レンジは2MHz～18MHzの範囲内である

1.4 リニア式電子スキャンプローブは以下の要件を満たしていること

1.4.1 プローブの走査方式はリニア式電子走査であること。

1.4.2 周波数レンジは 3MHz～17MHz の範囲内であること。

1.4.3 形状がホッケースティック型であること。

1.5白黒プリンタは以下の要件を満たしていること。

1.5.1 サーマルヘッド感熱記録方式であること。

1.5.2 解像度は256階調以上の鮮明な画像をプリント可能であること。

1.5.3 超音波装置本体のパネル操作によりプリントが行えること。

1.5.4 本体は約2.6kg以下であること。

*その他

- ・納入検査確認後1年間は、通常の使用により故障した場合の無償修理に応じること。
 - ・入札装置は入札時点で製品化されていること。
 - ・入札機器は医療用具に関しては、薬事法に定められている製造承認を得ていること。
- 以上